

対象学生	授業科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽学科 2・3年次	臨床医学各論	齋藤 考由	必修	講義	2単位	前期		
授業の概要								
広く精神障害全般にわたる知識の整理を行うことと、将来対人援助者となっていくための基本的な心構えをどのように養っていくかの基礎について解説、伝達する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーションと「診断・治療」の概念	シラバスの熟読	「診断・治療」の概念の確認	9	児童期の疾病・障害	資料の熟読、用語の理解	子供の病気の整理
	2	ターミナル期のころ	資料の熟読、用語の理解	臨死期の心性の整理	10	青年期のころ	資料の熟読、用語の理解	青年期心性の整理
	3	死生観と援助	資料の熟読、用語の理解	自身の死生観の確認	11	青年期の疾病・障害	資料の熟読、用語の理解	心を病むことの整理
	4	老いのころ	資料の熟読、用語の理解	老年期の心性の整理	12	成人期のころ	資料の熟読、用語の理解	成人期心性の整理
到達目標								
精神科が担当し、一般には「心を病む」と理解されている領域の疾病・障害のあらましについての知識が整理できること。その上で、対人援助者となっていく心構えが定まること。	5	老年期の疾病・障害	資料の熟読、用語の理解	老いていくことと病いの整理	13	神経症	資料の熟読、用語の理解	神経症概念の整理
	6	乳幼児期のころの発達	資料の熟読、用語の理解	幼児期の心性の整理	14	気分障害	資料の熟読、用語の理解	気分障害の概念の整理
	7	乳幼児期の疾病・障害	資料の熟読、用語の理解	乳幼児期の疾病の整理	15	精神病（統合失調症など）	資料の熟読、用語の理解	精神病とは何かについての整理
	8	児童期のころ	資料の熟読、用語の理解	子供の心性の整理				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
なし (講師の用意する資料)	成績評価基準	期末の筆記テストによる評価	100	知的な整理の程度と、それを自分のこととして考察できているかについて。		音楽療法資格取得者必修 講義内容を「他人事」としない		

対象学生	科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
音楽学科 2年次	臨床心理学 I	竹下 健太	必修	講義	2単位	後期		
授業の概要								
さまざまなところの問題についてアセスメントする方法について臨床心理学的見地からとらえ、基本的知識と技術を深めることによってセラピストとしての素養を高める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	臨床心理学の様々な考えや立場を概観しそれらを柔軟に統合する視点を学修	教科書の22ページまで読んで理解しておく	臨床心理学における多様性の意義について考察	9	異常と正常の多元性とそれらを理解する視点を学修	人を異常と正常に分けることの功罪について考察しておく	自分の異常な点を探しそれがどの基準から言えるか考察
	2	臨床心理学における様々な立場がどのようにして発展してきたか学修	臨床心理学の様々な考えの内どれが自分に合うか考察	臨床心理学における多様な立場の統合は可能か考察	10	代表的な心の病気について学修	教科書の78ページから94ページまで読んで理解しておく	代表的な心の病気について簡単な説明ができるまで暗記
	3	臨床心理学の物語性について学修	自分が好きな映画や小説に共通する物語構造をまとめておく	これまでと異なる構造を用いて自分の人生を物語ってみる	11	乳幼児期から思春期までの心理的問題について学修	1年次の発達心理学の内容を復習しておく	自分の成長過程を心理学的観点からアセスメントする。
	4	社会構成主義について学修	実存主義と社会構成主義は両立可能か考察しておく	自己のどこまでが社会的に構成されたものか考察	12	青年期から老年期までの心理的問題について学修	青年期から老年期までの人を観察法で記録しておく	事前に記録したデータを心理学的観点からアセスメントする
到達目標								
基本的な心理査定理論と方法を理解し、臨床心理学的見地から、心の問題を理解できるようになる。	5	エンパワメントについて学修	言語使用規則における権利剝奪の構造について考察しておく	言語使用規則による権力再生産にいかに対抗するか考察	13	代表的な発達障害について学修	教科書120ページから126ページまで読んで理解しておく	代表的な発達障害について簡単な説明ができるまで暗記
	6	心理アセスメントの概要を学修	診断という言葉の持つパターンリズムについて考察しておく	アセスメントという言葉を使う重要性について考察	14	発達過程で起こる問題について学修	教科書128ページから138ページまで読んで理解しておく	発達過程で起こりうる問題への対応について考察
	7	データの収集方法について学修	教科書の46ページから60ページまで読んで理解しておく	面接法と観察法の基本技法を用いて人間観察してみる	15	教員とディスカッションし臨床心理学的観点から独自の理論を構成する	臨床心理学に関連する本を数冊読み自分の意見を形成しておく	アセスメント技法を用いて自分の理論を検証する
	8	データの分析方法について学修（統計法含む）	教科書の62ページから66ページまで読んで理解しておく	友達の行動を数値データ化し統計処理してみる				
教科書・テキスト等	評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
「よく分かる臨床心理学（改定新版）」ミネルヴァ書房	成績評価基準	平常点（態度・行動観察）	10	授業に積極的に参加し、適切な発言ができていたか？		音楽療法コース必修		
	期末レポート	20	授業内容から学生自身が選んだテーマに関して、主体的に調査及び考察ができたか？					
	毎時間の振り返り（小レポート）	70	各授業内容を学生が自分自身の問題として考察できたか					

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科 3年次	音楽療法総合演習		小林真寿子・村橋和子		必修	講義・演習	2単位	前期
授業の概要								
1, 2年次にわたり、学んできた音楽療法の基礎理論、各論、技法、すべてを総合して整理する。それを基にセッションプログラムを立て、実習前に実際に施設にて実践するワークを行う。実践できない学生は教室にて、音楽技術や理論、グループワークを学ぶ。								
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修	
1	オリエンテーション 授業の進め方について理解し、音楽療法士の仕事や責任について考える	シラバスの熟読	音楽療法士として必要な学びについて考える。	9	臨床現場における伴奏について① 対象者のレベルに対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする。	課題曲をコード奏により弾き歌いする。	留意点を中心に課題曲の練習	
2	音楽療法的理論の統合を討議する	1, 2年次に学んだ理論を復習する。	各グループごとに音楽活動を考える。	10	臨床現場における伴奏について② 活動の目的に対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする。	課題曲をコード奏により弾き歌いする。	留意点を中心に課題曲の練習	
3	臨床現場における歌唱活動について(高齢者)	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる。	課題曲の練習	11	臨床現場における弾き歌いについて③ 臨床現場で求められる伴奏法について学び、弾き歌いを行い、検討する。	課題曲をコードによる伴奏で練習する。	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える	
4	臨床現場における伴奏法について(高齢者)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習	12	音楽療法における治療の実際 高齢者領域のセッションプログラムを作成し、ロールプレイを行う。	プログラム作成	プログラムの振り返りを行う。	
到達目標								
音楽療法士が音楽を媒体として現場で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とする。治療目的に沿ったプログラムを作成し、弾き歌い技術の向上を目指す。また、社会人としてのマナー、接遇などについても学び、それらを身につける。								
5	臨床現場における歌唱活動について(児童)	児童領域でよく使用する楽曲について調べる。	課題曲の練習	13	音楽療法の実際 施設にて学生グループがセッションを行う。	セッションの練習	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる。	
6	臨床現場における伴奏法について(児童)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習	14	実際に行ったセッションのフィードバック グループごとにセッションの内容を発表し、互いに検討する。	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる。	他の発表を見てセッションの在り方を考える。	
7	臨床現場における歌唱活動について(精神科)	精神科領域でよく使用する楽曲について調べる。	課題曲の練習	15	音楽療法総合演習における集団の意味 グループ活動における協働について学び、組織人としての言動を考える	各自、他者との関わりについてまとめる。	協働について考え、自身の他者との関係性を検討する	
8	臨床現場における伴奏法について(精神科)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習					
教科書・テキスト等								
適宜、提示する	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
成績評価基準	平常点 (態度・行動観察)		50	セッションや授業への取り組みの姿勢			音楽療法資格取得者必修	
	課題 / レポート		50	レポート内容や弾き歌いの点数				

対象学生	科 目 名		担 当 者		卒業必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科 3年次	障がい児保育演習		荒木 晴美		選択 (資格必修)	演習	2単位	前期
授業の概要								
発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を明らかにする。また、障がい児保育が特別なものではなく一般の保育にも生かせることを学ぶ。								
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修	
1	障がいの基本的な捉え方を具体的な本を読み聞かせすることで学ぶ	障がいについてどのように思うか考えてくる	本を読んでからの感想をまとめておく	9	記録と評価の方法を学ぶ	個別指導計画について調べておく	実際に計画書を作成してみる	
2	WHOの国際生活機能分類にもとづいた障がいの理解	ノーマライゼーションについて調べておく	保育者としてきちんと障がいを理解する	10	どのような環境でどのような遊びを働かせるかを学ぶ	保育所の一日の流れを調べておく	具体的にどのような遊具が理想が考えてみる	
3	戦前、戦後、現在の障がい児保育の歴史の変遷を知る	障がいのある人について書かれている本を読んでおく	現在の障がい児保育の特徴をまとめる	11	ほかの子どもに関心を持ち始めたときどうすればよいかを学ぶ	大人とのかかわりほどのようなものか調べておく	集団の中での課題を考えてみる	
4	障がい児の保育の形態と障がい幼児の受け入れについて学ぶ	統合保育について調べておく	障がいへの偏見をなくすにはどうするかを考えてみる	12	保護者対応の留意点について学ぶ	障がい受容について調べておく	子どもの気になる行動を見つけたらどうするか考える	
到達目標								
障がいへの理解を深め、障がい児保育の在り方や実際について学ぶ。								
5	其々の障がいの理解と支援について学ぶ	肢体不自由の原因疾患名を調べる	どのような手助けができるか考えてみる	13	どのような連携があるか学ぶ	保育所児童保育要録を調べておく	小学入学前にどのような連携があるか考える	
6	知的障がいの定義と分類、原因、特徴などを学び支援の方法を考える	発達検査や知能検査を調べておく	支援のポイントを確認しておく	14	保健、医療、福祉、教育における現状と課題について学ぶ	特別支援教育について調べておく	課題のなかで一番気になることは何かまとめておく	
7	言語障がいの特性を知り保育場面の支援を学ぶ	言語障がいの概略を調べておく	言葉の遅れがある園児の保護者への支援を考えてみる	15	「障がい児保育」の中で何を学んだかふりかえる	障がいに対するイメージの変化したことを考えておく	保育者になったらどのように取り組んでいくか考える	
8	用語や特徴について学び具体的支援の方法を学ぶ。	発達障害について調べておく	思春期になっての困り感を調べる					
教科書・テキスト等								
障害児保育(子どもとともに成長する保育者を目指して) 藤永 保 著 萌文書林 ISBN978-4-89347-166-6	評価方法		割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
成績評価基準	平常点 (態度・行動観察)		10	音楽療法資格取得者必修				
	課題 / レポート		10					
	期末テスト		80					
	毎時間の振り返り(学修のまとめ)							

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽学科 1・2年次	介護概論		立山 真由美		選択	講義	2単位	前期
授業の概要								
本講義では、障がいや高齢者を取り巻く環境、制度、様々な問題を概説し、社会福祉の理解を深める。特に高齢者の身体的・心理的・社会的特性を、具体的に事例を通し説明を行い、対人援助職として必要な知識・技術・倫理観を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 講義の進め方、内容について理解する	シラバスの熟読	対人援助職としての心構えについて考える	9	終末期ケア	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	2	介護の概念	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	10	介護予防と地域包括ケア	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	3	高齢者ケアの基本理念	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	11	介護援助技術 I	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	4	高齢者の身体的・心理的・社会的特性	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	12	介護援助技術 II	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	5	介護保険制度	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	13	身体拘束と虐待	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	6	介護福祉サービス	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	14	介護における倫理	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
	7	高齢者施設に関する援助専門職	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	15	まとめ (期末試験を行い、学修したことを振り返る)	これまでの学修 について復習	援助職としての 資質についてま とめる
8	認知症ケア	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理					
到達目標								
社会福祉の基本的理念、介護保険制度の仕組みについて理解する。高齢者における疾病や障害を理解し、その援助技術を身につけることが出来る。	5	介護保険制度	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	13	身体拘束と虐待	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理
6	介護福祉サービス	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	14	介護における倫理	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	
7	高齢者施設に関する援助専門職	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理	15	まとめ (期末試験を行い、学修したことを振り返る)	これまでの学修 について復習	援助職としての 資質についてま とめる	
8	認知症ケア	プリントの熟読 用語を調べる	講義内容を整理					
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
		平常点(受講態度、行動観察)		授業への集中、受講態度				
		課題、レポート		課題への取り組み				
		期末テスト		試験の点数				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科2年次 (音楽療法基礎理論ⅠⅡ 単位取得者)	音楽療法演習(各論)		村橋和子・青拓美		必修	演習	2単位	前期
授業の概要								
臨床音楽療法に関する各論を扱う。音楽療法の治療技術として代表的な理論、音楽療法に関連する領域の教育、治療理論を多方面から学ぶ。さらにそれらの理論を用いた音楽療法の手法についても学ぶ。毎週課題曲の弾き歌いを行う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 音楽療法基礎理論で学んだことを振り返りながら2年次での学習について理解する	シラバスを熟読する。	音楽療法士としての責任についてレポート作成	9	オルフ=ムジークセラピー 理論について学び、楽器を使って体験する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする。
	2	発達と音楽療法 児童領域での音楽療法について発達面から考える。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	発達についてまとめる	10	B E D - M U S I C 技法 理論について学び、体験し、この技法を習得する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする。
	3	発達諸理論と音楽療法 様々な発達理論を学び、音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	発達の諸理論についてまとめる	11	ロジャーズ「来談者中心療法」 プリントに沿ってこの治療法を理解し、音楽療法との関連を考える。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	音楽療法士として心がけるべきことをまとめる
	4	発達のアセスメント・評価 代表的な発達検査について学び、評価方法を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	よく使われる用語についてまとめる	12	パーソン・センタード・ケア 理論を理解し、音楽療法との関連について考える。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	音楽療法士として心がけるべきことをまとめる
	5	感覚統合理論 感覚統合理論について学び音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	感覚統合理論についてまとめる	13	調整的音楽療法・GIM 理論を理解し、体験する	教科書を熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめる
	6	リトミック リトミックの理論について学び、体験し、音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする	14	音楽療法における声の使い方 (時期未定) *青拓美講師による特別講座	課題曲の練習	青式発声法の理論についてまとめ、体験をレポートする
	7	プレイセラピー プレイセラピーについて学び音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	プレイセラピーについてまとめる	15	まとめ (課題曲の弾き歌い試験、筆記試験と振り返り)	教科書、プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	すべての項目について振り返る
8	即興的音楽療法(ノードフ・ロビンズ) 即興的音楽療法について学び、音楽療法での即興を体験する	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする		《備考》青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明			
到達目標								
音楽療法の治療技術として代表的な理論、音楽療法に関連する領域の教育、治療理論を多方面から学ぶことにより、それらの理論を用いた音楽療法の手法を習得することを目的とする。様々な手法を体験することにより、感性を高め、対象者に適した対応ができるようになる。	5	感覚統合理論 感覚統合理論について学び音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	感覚統合理論についてまとめる	13	調整的音楽療法・GIM 理論を理解し、体験する	教科書を熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめる
6	リトミック リトミックの理論について学び、体験し、音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする	14	音楽療法における声の使い方 (時期未定) *青拓美講師による特別講座	課題曲の練習	青式発声法の理論についてまとめ、体験をレポートする	
7	プレイセラピー プレイセラピーについて学び音楽療法との関連を理解する。	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	プレイセラピーについてまとめる	15	まとめ (課題曲の弾き歌い試験、筆記試験と振り返り)	教科書、プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	すべての項目について振り返る	
8	即興的音楽療法(ノードフ・ロビンズ) 即興的音楽療法について学び、音楽療法での即興を体験する	プリントを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする		《備考》青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明			
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			履修に関する留意事項	
「音楽療法の基礎」村井靖児著(音楽の友)適宜、プリント配布		平常点 (態度・行動観察)	30	発表への取り組み、受講態度				
		課題、レポート	10	課題への取り組み				
		期末テスト	50	弾き歌い、及び筆記試験の点数				
		毎時間の振り返り(学修のまとめ)	10	毎回のレポートやまとめへの取り組み、内容の充実				

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科2年次 (音楽療法基礎理論ⅠⅡ 単位取得者)	音楽療法演習(技法)		村橋 和子		必修	演習	2単位	後期
授業の概要		授 業 計 画						
臨床音楽療法に関する技法を扱う。音楽療法の対象者の健康及び疾病、障害に伴う症状に対して有効に働きかけるための技法について模擬セッションを通して学ぶ。また音楽療法基礎理論で学んだこと(障害の理解など)を更に深め、治療目的に沿った活動の手段や査定と評価の方法についても研究する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 夏休みの課題発表	夏休みの課題曲を練習する	注意点がクリアできるよう練習する	9	児童領域における音楽療法の実際(ロールプレイ) 発表者はリーダー、他の学生は対象者役となり模擬セッションを行う	発表者はプログラムを実施できるよう準備する。	各発表について振り返り、改善点を考える。
	2	既存楽曲の弾き歌い(基本コードについて) コード奏について学ぶ。	各自の課題を練習する。	注意点がクリアできるよう練習する	10	高齢者領域における音楽療法の実際(プログラム) 目的に沿ったプログラムを作成する	高齢者領域の障がいについて復習しておく。	プログラムを発表できるよう各自準備する
	3	既存楽曲の弾き歌い(その他のコード) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する。	各自の課題を練習する。	注意点がクリアできるよう練習する	11	高齢者領域における音楽療法の実際(ロールプレイ) 発表者はリーダー、他の学生は対象者役となり模擬セッションを行う	発表者はプログラムを実施できるよう準備する。	各発表について振り返り、改善点を考える。
	4	既存楽曲の弾き歌い(伴奏形のアレンジ) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する。	各自の課題を練習する。	注意点がクリアできるよう練習する	12	精神科領域における音楽療法の実際(プログラム作成) 目的に沿ったプログラムを作成する	高齢者領域の障がいについて復習しておく。	プログラムについて改善点を考える
到達目標								
音楽療法対象者の健康及び疾病、障害に伴う症状に対して有効に働きかけるための技法を身につけることを目的とする。コード奏による弾き歌いができること、また目的に応じた選曲や活動をプログラムし、対象者に適切な対応ができることを目指す。	5	既存楽曲の弾き歌い(移調) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する。	各自の課題を練習する。	注意点がクリアできるよう練習する	13	音楽療法の査定と評価 プリントに沿って様々な査定、評価法について学ぶ。	プリントを熟読し、用語を調べる。	査定、評価法についてまとめる。
	6	各領域の対象者に適した楽器の種類と奏法 様々な楽器の種類とその奏法について学び、今後の授業では毎回弾き歌いを行う。	音楽療法で用いる楽器について理解しておく。	楽器について復習する	14	まとめ(課題曲の弾き歌い試験と振り返り)	課題曲の練習と発表の準備	発表内容についてレポートする
	7	各領域の対象者に適した楽器の種類と奏法 即興を体験する	音楽療法で用いる楽器について理解しておく。	即興体験についてレポートする	15	まとめ(課題曲の弾き歌い試験と振り返り)	課題曲の練習と発表の準備	発表内容についてレポートする
	8	児童領域における音楽療法の実際(プログラム) 目的に沿ったプログラムを考える。	児童領域の障がいについて復習しておく	プログラムを発表できるよう各自準備する				
	教科書・テキスト等		評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項
適宜、プリント配布		平常点 (態度・行動観察)		20	発表への取り組み、受講態度		音楽療法資格取得希望者必修	
		期末テスト		60	弾き歌い、発表の点数			
		毎時間の振り返り(学修のまとめ)		20	毎回のレポートやまとめへの取り組み、内容の充実			

対象学生	授 業 科 目 名		担 当 者		必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科 3年次	音楽療法実習指導		小林真寿子・村橋和子		必修	演習	2単位	前期
授業の概要		授 業 計 画						
音楽療法総合演習に引き続き、具体的に実習の心構えを学ぶ。現場で働く他職種の技術や仕事の内容を把握し、音楽療法士が組織の中で、どのように働くのか学生自身で考え、行動できるようトレーニングする。実践できない学生は教室でワークのトレーニングを行う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 実習について具体的に学ぶ。	シラバスの熟読。実習プロフィールを書く。	実習プロフィールを仕上げる。	9	臨床における伴奏について① 対象者のレベルに対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする。	課題曲をコード奏により弾き歌いする。	課題曲をコード奏により弾き歌いする。
	2	音楽療法的理論の統合を討議する	1, 2年次に学んだ理論を復習する。	各グループごとに音楽活動を練習する。	10	グループワークの中でのコ・セラピストの役割セッションにおける各役割について考え、ロールプレイを行う。	コ・セラピストとしての自分の体験をまとめる。	体験を基に、セッションの在り方について考える。
	3	臨床における歌唱活動について(高齢者)	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる。	セッションを組み立て練習する。	11	臨床における伴奏について② 活動の目的に対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする。	課題曲をコードによる伴奏で練習する。	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える
	4	音楽療法における治療の実際 高齢者領域のセッションプログラムを作成し、ロールプレイを行う。	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる。	プログラムの振り返りを行う。	12	臨床における伴奏について③ 臨床現場で求められる伴奏法について学び、弾き歌いし、検討する。	課題曲をコードによる伴奏で練習する。	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える
到達目標								
様々な体験を通して、音楽を媒体として治療することがどのようなことなのか、治療者としての意識を持つことを目的とする。また社会人として適切なふるまいができることを目指す。	5	臨床における歌唱活動について(児童)	児童領域でよく使用する楽曲について調べる。	児童領域でよく使用する楽曲を弾き歌いする。	13	音楽療法の実際 施設にて学生グループがセッションを行う。	セッションの練習	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる。
	6	セッション実際の振り返り 体験発表を振り返り、プログラムや提供の方法を再考する。	発表者は準備	プログラムの再考	14	実際に行ったセッションのフィードバックグループごとにセッションの内容を発表し、互いに検討する。	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる。	他の発表を見てセッションの在り方考える。
	7	対人援助職としての意識を考える 施設やコ・メディカルについて学び、対人援助の心得を考える。	パーソンセンタード・ケアについて復習する。	対人援助についてまとめる。	15	音楽療法実習における集団の意味 グループ活動における協働について学び、組織人としての言動を考える	各自、他者との関わりについてまとめる。	協働について考え、自身の他者との関係性を検討する
	8	臨床における歌唱活動について(精神科)	精神科領域でよく使用する楽曲について調べる。	精神科領域でよく使用する楽曲を弾き歌いする。				
	教科書・テキスト等		評価方法		割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項
適宜、提示する		平常点 (態度・行動観察)		50	セッションや授業への取り組みの姿勢		音楽療法資格取得者必修	
		課題 / レポート		50	レポート内容や弾き歌いの点数			

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽学科 3年次	音楽療法実習A（高齢者領域）	村橋 和子	必修	実習	2単位	後期
授業の概要		授業計画				
学生数名がグループとなり、2種の資格取得の学生と共に高齢者施設において10日間、施設利用者と関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽レクリエーションにおいてはプログラム作成、実施、記録を行う。		<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 実習先へのオリエンテーションの際、実習プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 				
到達目標		<p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> 実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 実習先へお礼状を出す。 				
1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する。		<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 学内では、授業として開講されない。 各施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) 実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する。 				
成 績 評 価 基 準						
下記の評価項目について実習日誌、指導担当者からの報告、実習巡回時の様子などから総合的に評価する。						
	評価項目	評価のポイント				
実習態度	勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> 音楽療法士としてふさわしい身なり、行動 遅刻や欠席がなく実習に専念 				
	施設職員との協調と指導受け入れの状況	<ul style="list-style-type: none"> 指導助言、注意などを積極的に受け入れ、学びへ生かす 音楽活動以外の活動への積極的参加 				
	検討会、反省会	<ul style="list-style-type: none"> 検討会、反省会での意見発表と自己反省 検討会、反省会の内容整理 セッション実践技術向上 				
	実習記録の充実	<ul style="list-style-type: none"> 実習日誌の提出 実習日誌の内容の充実(観察力、実習の成果を踏まえた記録と考察力) 				
実践力	セッションプログラムの充実、及び周到な準備	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び集団の特性を把握し、治療目的に応じたプログラム、活動計画 				
	対象者への関心、適切な関わり	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への理解の深まり 音楽活動、またそれ以外での良好な関係性 				
教科書・テキスト		履修に関する留意事項				
特になし		音楽療法コース必修				

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽学科 4年次	音楽療法実習A（児童領域）	村橋 和子	必修	実習	2単位	前期
授業の概要		授業計画				
学生数名がグループとなり、保育園において10日間、こどもたちと関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での保育の手伝い、また音楽療法においてはプログラム作成、実施、記録を行う。		<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 実習先へのオリエンテーションの際、実習プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 				
到達目標		<p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> 実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 実習先へお礼状を出す。 				
1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する。		<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 学内では、授業として開講されない。 各保育園にて10日間の実習を行う。(保育の手伝い、音楽活動など) 実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する。 				
成 績 評 価 基 準						
下記の評価項目について実習日誌、指導担当者からの報告、実習巡回時の様子などから総合的に評価する。						
	評価項目	評価のポイント				
実習態度	勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> 音楽療法士としてふさわしい身なり、行動 遅刻や欠席がなく実習に専念 				
	病院職員との協調と指導受け入れの状況	<ul style="list-style-type: none"> 指導助言、注意などを積極的に受け入れ、学びへ生かす 音楽活動以外の活動への積極的参加 				
	検討会、反省会	<ul style="list-style-type: none"> 検討会、反省会での意見発表と自己反省 検討会、反省会の内容整理 セッション実践技術向上 				
	実習記録の充実	<ul style="list-style-type: none"> 実習日誌の提出 実習日誌の内容の充実(観察力、実習の成果を踏まえた記録と考察力) 				
実践力	セッションプログラムの充実、及び周到な準備	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び集団の特性を把握し、治療目的に応じたプログラム、活動計画 				
	対象者への関心、適切な関わり	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への理解の深まり 音楽活動、またそれ以外での良好な関係性 				
教科書・テキスト		履修に関する留意事項				
特になし		音楽療法コース必修				

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
音楽学科 4年次	音楽療法実習A（精神科領域）	村橋 和子	必修	実習	2単位	後期
授業の概要		授業計画				
学生数名がグループとなり、精神科病院や関連施設において10日間、対象者と関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽療法においては プログラム作成、実施、記録を行う。		<p>〈事前学修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 ・セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 ・セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 ・実習先へのオリエンテーションの際、実習プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 <p>〈事後学修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 ・実習先へお礼状を出す。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内では、授業として開講されない。 ・各病院、施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する。 				
到達目標						
1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する。						
成 績 評 価 基 準						
下記の評価項目について実習日誌、指導担当者からの報告、実習巡回時の様子などから総合的に評価する。						
	評価項目	評価のポイント				
実習態度	勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法士としてふさわしい身なり、行動 ・遅刻や欠席がなく実習に専念 				
	病院職員との協調と指導受け入れの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指導助言、注意などを積極的に受け入れ、学びへ生かす ・音楽活動以外の活動への積極的参加 				
	検討会、反省会	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会、反省会での意見発表と自己反省 ・検討会、反省会の内容整理 ・セッション実践技術向上 				
	実習記録の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌の提出 ・実習日誌の内容の充実(観察力、実習の成果を踏まえた記録と考察力) 				
実践力	セッションプログラムの充実、及び周知な準備	<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び集団の特性を把握し、治療目的に応じたプログラム、活動計画 				
	対象者への関心、適切な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への理解の深まり ・音楽活動、またそれ以外での良好な関係性 				
教科書・テキスト		履修に関する留意事項				
特になし		音楽療法コース必修				

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期
両学科 3年次	音楽療法実習B	村橋 和子	必修	実習	2単位	後期
授業の概要		授業計画				
学生数名がグループとなり(時に1名もあり)、2種においては高齢者施設において10日間、施設利用者に関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽レクリエーションにおいてはプログラム作成、実施、記録を行う。		<p>〈事前学修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 ・セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 ・セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 ・実習先へのオリエンテーションの際、実習プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 <p>〈事後学修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 ・実習先へお礼状を出す。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内では、授業として開講されない。 ・各施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する。 				
到達目標						
1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する。						
成 績 評 価 基 準						
下記の評価項目について実習日誌、指導担当者からの報告、実習巡回時の様子などから総合的に評価する。						
	評価項目	評価のポイント				
実習態度	勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法士としてふさわしい身なり、行動 ・遅刻や欠席がなく実習に専念 				
	施設職員との協調と指導受け入れの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指導助言、注意などを積極的に受け入れ、学びへ生かす ・音楽活動以外の活動への積極的参加 				
	検討会、反省会	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会、反省会での意見発表と自己反省 ・検討会、反省会の内容整理 ・セッション実践技術向上 				
	実習記録の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌の提出 ・実習日誌の内容の充実(観察力、実習の成果を踏まえた記録と考察力) 				
実践力	セッションプログラムの充実、及び周知な準備	<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び集団の特性を把握し、治療目的に応じたプログラム、活動計画 				
	対象者への関心、適切な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への理解の深まり ・音楽活動、またそれ以外での良好な関係性 				
教科書・テキスト		履修に関する留意事項				
特になし		音楽療法資格取得者必修				